

## 江田東山の金輪の池と狸



今から 1270 年も昔々の話です。江田広野あたり“どろこし” 一帯は紫香楽宮造営に係わる人達の生活用水として神山・江田・小川出からの流水を集め、勅旨・牧・黄瀬・宮町等の水不足解消に、行基さんが溜め池堰を造るのに力を注がれ 100 町歩(1km<sup>2</sup>) 余りはあったそうだと伝わっています。

聖武天皇さんが古道を通り行幸された際、川向の朝泉寺で休憩され天皇の刀剣で用水池のダムが未長く紫香楽の地の発展に貢献出来る事を願い清められたそうです。

都造営も山火事、地震等の災害が起き、たった 4 年間だった都は奈良に戻りましたが、そのような大規模な用水ダム湖があった事から江田という地名に成ったとも伝わっています。

現在こん跡が残っている場所は、昔の溜池堰の高さの所に 15 坪余りの「金輪の池」があり、弁財天が祀られ採掘場に行く途中に小さな池としてなごりを残しています。

昔の水位はそれ程高かったと東山に昔から住んでいた古老狸のお話です。

## 江田城山の子安地蔵尊と狸

昔々(735年頃)、行基さんの師匠である義淵(ぎえん)が小川・寺谷の長福寺・奥ノ院(大光寺)を創建され、そこに祀られた丈六地蔵尊の開眼法要を行基さんがされたそうです。その時、道標(道しるべ)として 1 尺 8 寸(54cm)の光背と蓮華台付の立派な地蔵尊と避難所として使えるお堂を大光寺の傍に建てられたそうです。

その後、地蔵尊は古代街道である城山地先に移動されたそうです。時が流れ 1638 年頃(多羅尾代官任命)には江田街道も北側の湯屋縄手中心部(殿荘辺り)に変わり、その都度地蔵堂も移動され、大正 2 年(1913 年)には東側の本町中心の位置辺りに地蔵堂が新しく建てられ、浄土寺の別院・子安地蔵堂として毎年 8 月 24 日には何度も移動されました。子安地蔵菩薩の会式が行われている釜向いの古老狸のお話です。



資料: 江田・島林氏提供